

青山文庫だより

植物学と佐川

「博物学」という言葉をどこで存じですか？辞書を引くと「動植物や鉱物・地質などの自然物の記載や分類などを行った総合的な学問」と説明されています。

この学問は、コロンブスに象徴される大航海時代に、新大陸で新発見された様々なものがヨーロッパに運ばれ、それらが何であるか規定していく過程で生まれました。元々、博物学の対象は自然全般で、簡単に言えば「自分以外のもの」でした。しかし、これはあまりにも広範囲すぎたため、次第に細分化されて、動物学・植物学・天文学・地質学などの各学問が成立してゆきます。

このような、新しい学問成立の流れは、幕末期から明治初期に日本にも入ってきて、順番に広まり、深化してゆきます。佐川の関係者としては、植物学者の牧野富太郎がその代表格ですが、その他にも、苔の研究で知られる吉永虎馬、沖繩の動植物の研究で知られる黒岩恒（「尖閣諸島」を命名した人物でもあります）、日本人初



で、様々なことをご指導いただきました。「どうすれば技術を高められるのか？習うより慣れること。」「どうすれば能率良く仕事ができるのか？常に一歩先を考えること。」「どうすれば山の価値を高める仕事ができるのか？良い木を残すことを最優先にすること。」自伐林家さんから学んだことを挙げればきりがありません。協力隊卒業後、一人で自伐型林業に従事する予定の私にとって、長年の経験に基づいた知恵や技術は、目を見張るものばかりでした。できるところから少しずつ挑戦し、経験を積み重ねていきたいと思います。最後に、今回の貴重な機会を通してなにより痛感したのは、自分自身の未熟さです。残りの2年間で学ぶべきことは山ほどあり、のんびりしている暇など少しもないということを改めて認識した次第です。今後は、より一層、「時間は有限である」ことを自覚し、日々精進していきたいと思えます。



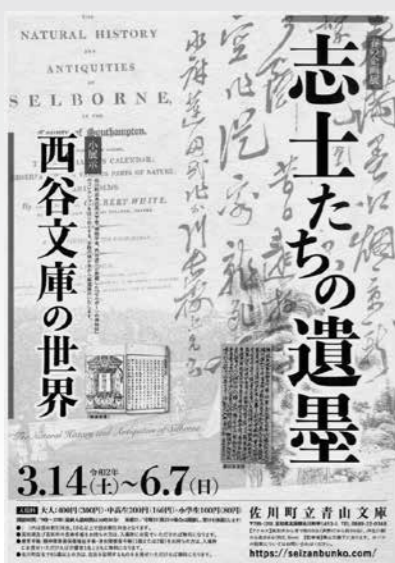
「時間は有限」
こんにちは、6期生の村澤です。神奈川から佐川町に引っ越してきて、丸1年が過ぎました。当たり前のことですが、町民の方々の山の管理を任せていただくには、今のままの知識と技術では到底足りません。どうかして現場経験を増やしたいと考えていた矢先、今年初旬に大変ありがたいことに、地元の自伐林家さんのご厚意で、山仕事を勉強する機会を設けていただきました。約2カ月間と短い期間ではありましたが、私にとっては非常に密度が高く充実した時間でした。伐倒から枝払い、木取りや玉切りなどの基礎技術から、間伐や育林といった山との向き合い方

の慧星発見者である山崎正光など、新しい学問に取り組み、大きな成果をだした佐川の先人がいます。今回の小展示で紹介している「西谷文庫」は、博物学から派生した新しい学問に興味を持ち、趣味として学び続けた西谷退三の蔵書です。日本で博物学が分化していく過程の後半に生きた彼の蔵書をとおして、西谷の学問への熱意を感じていただければ幸いです。

（青山文庫 藤田有紀）

〇春の企画展「志士たちの遺墨」
〇小展示「西谷文庫の世界」

3月14日（土）～6月7日（日）



※5月6日まで臨時休館となっております。今後、休館期間が延長となる場合があります。

チーム佐川 監督メッセージ No.64



～ひとりごと・つぶやき・ボヤキ～

〇月〇日 晴れ 涼 堀見和道

「令和2年度地域おこし協力隊」
自伐型林業の担い手の確保を目的に、地域おこし協力隊の採用を始めてから7年目を迎えました。令和2年度は新規に佐川町に移住される7名を含めて、24名の協力隊員が佐川町の幸せなまちづくりのために貢献してくれることになっています。これまでに、60名程の協力隊員が佐川町に移住し、活躍をしてくれ、協力隊卒業後も佐川町に残り、山の管理や、ショウガやトマトの栽培、観光などまちづくりを支えています。この6年間を振り返ると、多くの地域おこし協力隊が移住してくる中で、受け止める側の役場や住民の皆さ

んの中には、言葉や生活に対する考え方の違いに少し戸惑ったこともあったのではないかと思います。ただ、住まいのことや自治会としての活動、食事のことなど、多くの住民の方に支えていただき、移住してくれた方々と町に長く住んでいる方々との関係が年々良くなっているように感じています。違う視点を持った人を受け入れ、お互いの良さを伸ばし、まちの宝物に磨きをかける、そんな積み重ねが幸せなまちづくりにつながっていると感じています。すべての関係者に感謝、感謝です。今年度もよろしくお願ひします。

チーム佐川 監督 堀見和道（町長）

文芸

川柳

戦国の暮らしは知らぬ 武者幟のほり
独り居の 放浪ぐせに 取りつかれ
自分史の 本音を消して ペンを置く
和田 憲一

俳句

人類の 劫払われて 青き空
東 聖（ペンネーム）
鍬洗う 小川の水も 温みけり
味元 佐知子

短歌

春雨に 濡れてみむとて 童かな
東 聖（ペンネーム）
敵は何処だ 姿も見せず 新コロナ
ほらほら触れた その手に付いてくる
東 聖（ペンネーム）

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか？

※7月号への掲載を希望される方は6月1日(月)まで
投稿方法：氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。